

公立陶生病院新東棟建設工事 設計概要



新東棟 完成イメージ

平成27年3月

公立陶生病院組合
(瀬戸市・尾張旭市・長久手市)

設計主旨

公立陶生病院は、瀬戸市・尾張旭市・長久手市で組織する組合立の病院であり、尾張東部医療圏の中核病院として幅広い診療機能を持つとともに、救急医療、がん医療、周産期医療などに力を注ぎ、地域住民への充実した医療サービスを提供してきました。

平成 26 年 1 月には、急性期医療部門を集約した西棟が運用を開始し、救命救急センターの指定を受け、また、平成 26 年 10 月には、南棟内でがん診療部を移転拡充し、がん拠点病院としての機能も充実が図られています。

これに引き続き、病棟と診療・診療支援、経営管理の各部門を新東棟と南棟に再編・整備し、病院機能の一層の効率化と活性化を図るため、「公立陶生病院 新東棟建設事業」設計内容をまとめました。

○ 新東棟の整備による地域の周産期・小児医療の中核施設としての機能の充実

- 新東棟に次世代を担う子ども達のための医療部門の中核となる「地域周産期母子医療センター（NICU・産婦人科病棟・分娩室）」、「小児（科）病棟」を配置し、それぞれの機能強化を図ります。また、地域周産期母子医療センターは、新東棟3階に配置することにより、渡り廊下で接続された中央手術部（西棟3階）への迅速な移動を可能とし、緊急手術等への対応強化を図ります。

○ より一層の災害対応機能の強化

- 西棟に引き続き、新東棟においても免震構造を採用するとともに、新東棟にも非常用発電機（2000kVA）を配置することで西棟と合わせ複数配置とし、水道（井水・市水）とともにインフラを複数系統とし、災害時においても病院機能を十分に発揮できるものとします。

○ 施設整備による病院機能の効率化・活性化

- これまで以上の安全確保や感染管理、空間のわかりやすさなど、超高齢化社会を意識した施設整備を行います。
- 新しい外来は、落ち着いた待合い、効率的でプライバシーが守られた診察室など、患者のアメニティ向上に努めます。また、患者の流れに配慮したわかりやすい外来動線とします。
- 新しい病棟は、広くて明るいテイルームや清潔で使いやすいトイレなど、入院環境の向上に努めます。また、1床あたりの病床面積を十分に確保し、医療行為が円滑に行えるスペースを確保するとともに医療に必要な設備の充実を図ります。
- 南棟1階に「患者支援センター（仮称）」を設置し、患者窓口の集約化を図り、患者サービスの充実を図ります。
- 人や物の移動の効率化や安全性を向上させるため、患者エリアとサービスエリアを区分します。

○ 院内の利便性と快適性の向上

- 南棟1階に売店、カフェ、理美容等の利便施設を配置するとともに、新東棟に落ち着いた空間で食事のできるレストランを設け患者や家族の利便性と快適性の向上を図ります。